

介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名 社会福祉法人喜楽会

研修事業の名称 社会福祉法人喜楽会 介護職員初任者研修 (通信)

1 職務の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	3 時間	<p>(講義内容)</p> <p>○今日的な地域包括ケアシステムの推進に向けた動向や介護保険制度の改正など実際の多様な介護サービスを取り巻く状況についても補足する。介護保険サービスの種類や全体的な枠組みを理解する。</p> <p>○介護保険による居宅サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する。</p> <p>○介護保険による施設サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する。</p> <p>○介護保険外の介護サービスの説明と介護ニーズの多様性の理解を図り意義や目的を説明する。</p>
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 時間	<p>(講義内容)</p> <p>○視聴覚教材等を活用し、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解させる。付録のDVDを活用する。DVDは、介護職がどのような場で、どのような利用者に対して、どのようなサービスを提供するのか、具体的なイメージをもつことができるように、実践的な取り組みを紹介する内容になっている。具体的には、①訪問介護、②通所介護、③認知症対応型共同生活介護、④小規模多機能型居宅介護、⑤介護老人福祉施設、⑥障害福祉サービス、を取り上げている。</p> <p>○視覚教材内容に関する補足説明を行う。各種サービスの内容や利用者像などを通じて、介護職の仕事内容や働く現場を理解する。</p> <p>○介護保険サービスの利用の流れに沿ってケアマネジメントの基本的なしくみについて説明する。合わせてケアプランの位置づけ、チームアプローチ、多職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携について理解を図る。</p> <p>(演習内容)</p> <p>○各事業所での基本的な業務に関して事例資料を用いた個人演習ワークを行いながら具体的なイメージをもって理解を図れるようにする。</p> <p>○仕事上でのチームアプローチに焦点を当てグループ演習を行う。KJ法を用いながら介護職同士の連携、他職種間の連携(看護職、調理担当者、ケアマネ等)との重要性について話し合いを行う。</p> <p>○見学施設4ヶ所の見学を行う。</p>
合計	6 時間	

2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①人権と尊厳を支える介護	5 時間	1 時間	4 時間	2 1~7 15	<p>(講義内容)</p> <p>○人権と尊厳の保持に関する説明を行う。 (個人としての尊重、アドボカシー、エンパワメントの視点、「役割」をもつことの大切さ、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシー保護)</p> <p>○ICF の障害の捉え方や考え方を説明する。介護分野における利用者理解に関して実践的に理解を図る。</p> <p>○QOL について説明する。生活の質とは具体的にどのように理解する必要があるのか介護の実践に照らし理解を図る。</p> <p>○ノーマライゼーションについて説明する。思想の源流から社会的な背景や社会の在りかたを視野に入れて説明する。</p> <p>○虐待防止・身体拘束禁止について説明する。社会的に明らかになっている事件などを取り上げ、実践上での具体的な理解が図れるようにする。</p> <p>介護保険指定基準上の身体拘束禁止項目の説明、高齢者虐待防止法における虐待の定義、及び地域における対応のしくみなどの理解を図る。</p> <p>高齢者の養護者支援の必要性とその支援の方法について説明する。</p> <p>○個人の権利を守る制度について以下の項目について説明する。 (個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援制度)</p> <p>(演習内容)</p> <p>○高齢者虐待のニュース事例を用い、倫理的な視点からグループディスカッションを行う。社会的な支援の方法について補足説明する。</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>○人権と尊厳の保持の概要について学習する。</p> <p>○介護における ICF の視点を学習する。</p> <p>○QOL (生活の質) の考え方、広げる視点を</p>

					<p>学習する。</p> <p>○ノーマライゼーションの考え方について学習する。</p> <p>○身体拘束禁止、高齢者虐待防止法について学習する。</p>
②自立に向けた介護	4 時間	0.5 時間	3.5時 間	2 8~14	<p>(講義内容)</p> <p>○自立支援について説明する。高齢者でも障害の重い人にとって「自立」とはどのように考えることができるのか。自立と自律支援について理解を図る。</p> <p>残存能力の活用がなぜ必要であるのか理解を図る。動機と欲求に関して心理学的な視点から具体的な支援に引き寄せて説明する。意欲を高める支援について事例を用いながら説明する。個別性・個別ケアについて、介護職の専門性に注目し理解を図る。重度化防止について、日常生活支援から介護方法まで視野に入れ、説明する。</p> <p>○介護予防について説明する。先進的な地域での介護予防活動を紹介し、介護予防の重要性や意義について理解を図る。介護予防の考え方として、今日的な地域包括ケアの考え方と合わせ地域における支援の在りかについて理解を図る。</p> <p>(演習内容)</p> <p>○地域で生活する一人暮らしの高齢者に関するインシデント事例を用い、アセスメント作業を通して、どのような予防活動が可能かグループ討議を通して発表する。</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>○自立のとらえ方、自立支援の意義について学習する。</p> <p>○個別性を踏まえたケアの必要性について学習する。</p> <p>○具体的事例を用いて、自立支援の視点、残存能力の活用、介護予防の考え方を学習する。</p>
合計	9	1.5	7.5		

3 介護の基本（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	1時間	1時間	314	<p>（講義内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護環境の特徴（施設と在宅との違いなど）を学ぶ。地域包括ケアの方向性について、グループホームや小規模多機能型居宅介護の実践を紹介しながら理解をはかる。 ○介護の専門性について考え、専門職に求められるものを以下の視点から説明する。（重度化防止・遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための援助、根拠ある介護、チームケアの重要性、事業所内のチーム、多職種からなるチーム） ○介護に関わる職種について以下の視点から理解を図る。 （異なる専門性をもつ多職種の理解、介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームになり利用者を支える意味、お互いの専門的能力を活用した効果的なサービスの提供、チームケアにおける役割分担） <p>（演習内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域におけるケア会議等の模擬事例について、多職種でどのように役割を分担し具体的な専門的な支援を行うのかについてグループ演習を通して理解を図る。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者主体の考え方について学習する。 ○自立した生活を支えるための支援姿勢について学習する。 ○根拠に基づいた介護の概略について学習する。 ○異なる専門性を持つ多職種について学習し、多職種連携とチームケアのあり方について学習する。
②介護職の職業倫理	1時間	0.5時間	0.5時間	36	<p>（講義内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護職がもつべき専門職としての倫理について説明する。 ○日本介護福祉士会倫理綱領を参考に介護

					<p>職にかかわる倫理綱領を理解する。</p> <p>○介護職の社会的責任、プライバシーの保護・尊重について理解を図り、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを整理し説明する。</p> <p>○可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門職倫理に対する理解を促す。</p> <p>《添削課題出題ポイント》 介護職が持つべき職業倫理を学ぶ 日本介護福祉士会倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理要綱を理解する。</p>
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2時間	1時間	1時間	3 2 3	<p>(講義内容)</p> <p>○介護における安全の確保について説明する。事故に結びつく要因を探り対応していく技術（危険予知能力の育成）の重要性について理解を図る。</p> <p>ヒヤリハット事例の現場での活用など危険とならないように介護の質を向上する対応の重要性について理解を図る。</p> <p>○事故予防、安全対策について以下の視点から説明する。（組織的な対応としてのリスクマネジメント、介護事故等の分析の手法と視点、事故に至った経緯の報告、家族への報告、市町村への報告、組織や事業所での情報の共有）</p> <p>○感染対策について介護現場での事例を示しながら以下の視点から説明する。（感染の原因と経路、感染源の排除、感染経路の遮断、「感染」に対する正しい知識をもつ）</p> <p>(演習内容)</p> <p>○介護事故のインシデント事例を用い、原因の仮説立案のためのアセスメントを行い具体的な対応策について立案する。多面的なアセスメントの重要性や情報共有を通じた再発防止に向けた対応について理解を図る。</p> <p>《添削課題出題ポイント》 ○介護職として利用者の安全を確保することの重要性を学習する。</p>

					<p>○リスクマネジメントとその視点について学習する。</p> <p>○感染症対策、感染源および感染経路の遮断の概略について学習する。</p>
④介護職の安全	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	3 5	<p>(講義内容)</p> <p>○介護職の心身の健康管理について介護の質に影響することを理解する。</p> <p>○介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を実践的な理解が図れるように説明する。</p> <p>○腰痛の予防に関して、負担のかからない介護の方法やボディメカニクスのしくみを紹介し理解を図る。</p> <p>○介護職者の感染症対策やそれに伴う手洗い・うがいの励行、手洗いの基本的な方法について理解を図る。</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>○介護職の心身の健康管理の必要性の概略について学習する。</p>
合計	6	3	3		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護保険制度	3 時間	0.5 時間	2.5 時間	4-1 1 2 3 4 9	<p>(講義内容)</p> <p>○介護保険制度が創設された背景を理解したうえで、制度の目的と動向について以下の項目を通して理解を図る。(ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進)</p> <p>○介護保険制度の基本的なしくみについて以下の観点から理解を図る。(保険制度としての基本的なしくみ、介護給付と種類、予防給付、要介護認定の手順)</p> <p>○介護保険制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに、制度の財政について以下の項目を通して理解を図る。(財政負担、指定介護サービス事業者の指定)</p> <p>(演習内容)</p> <p>○介護保険制度の基本的なしくみの理解を図るために個人ワーク演習用のチャート資料を用意し説明とともに理解を図る。</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>○介護保険の基本理念について学習する。</p> <p>○介護保険制度の仕組みを学習する(保険者、被保険者、保険給付)。</p> <p>○要支援・要介護認定と、認定の流れについて学習する。</p> <p>○制度を支えるための財源、組織・団体の機能と役割として、財政負担の概要と行政機関、国保連の役割について学習する。</p>
②医療との連携とリハビリテーション	3 時間	0.5 時間	2.5 時間	4-1 5 6 7 8	<p>(講義内容)</p> <p>○医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて理解を図る。</p> <p>○在宅における訪問看護や施設での介護職の役割を中心に看護職の専門職性や役割を理解し、連携方法について実践的な理解を図る。</p> <p>○リハビリテーションの理念について理解</p>

					<p>を図る。</p> <p>(演習内容)</p> <p>○尿道カテーテル使用、低酸素療法、人工肛門等の利用者の対応における車椅子対応時の事故や入浴介助時の事故などインシデント事例を用いて、適切な対応方法や看護職との連携について理解を図る事例演習を行う。</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>○医療依存度の高い介護サービス利用者の増加を踏まえ、医療職と連携する事の重要性を学習する。</p> <p>○訪問看護について学習する。</p> <p>○リハビリテーションの理念、目的、考え方について理解する。</p>
③障害者福祉制度およびその他制度	3時間	0.5時間	2.5時間	4-2 1 2 3 4 5	<p>(講義内容)</p> <p>○障害者福祉制度の理念について以下の項目を含め理解を図る。(障害の概念、ICF<国際生活機能分類>)</p> <p>○障害者福祉制度の基本的なしくみについて基礎的理解を図る。特に介護給付・訓練等給付の申請から支給決定までの流れを理解する。</p> <p>○個人の権利を守る制度について以下の項目について説明する。 (個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援制度)</p> <p>(演習内容)</p> <p>○一人暮らしの認知症高齢者の権利擁護の視点からインシデント事例を用い、必要な生活上の支援についてグループ演習を通して考察する。そのうえで、日常生活自立支援制度や成年後見制度の必要性について理解を図る。</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>○障害の概念、ICF(国際生活機能分類)に基づくとらえ方、自立のとらえ方を通じて、障害者福祉制度の理念について学習する。</p> <p>○障害者福祉制度について、介護給付、訓</p>

					<p>練等給付、地域生活支援事業など、給付について学習し、申請から支給決定までの流れについて学習する。</p> <p>○個人の権利を守る制度として、個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業について学習する。</p>
合計	9	1.5	7.5		

5 介護におけるコミュニケーション技術 (6 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護におけるコミュニケーション	3 時間	1.5 時間	1.5 時間	5 1 2 4 5	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について理解を図る。 特に相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴、共感の応答について理解を図る。 ○コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーションについて理解を図る。特に言語的コミュニケーションの特徴、非言語的コミュニケーションの特徴について理解を図る。 ○利用者・家族とのコミュニケーションの実際について、以下の観点から理解を図る。(利用者の思いを把握する、意欲低下の要因を考える、利用者の感情に共感する、家族の心理的理解、家族へのいたわりと励まし、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い) ○利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際について以下の観点から理解を図る。(視力・聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、失語症に応じたコミュニケーション技術、構音障害に応じたコミュニケーション技術、認知症に応じたコミュニケーション技術) <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて理解を図るためにマイクロカウンセリングの方法を用い、ロールプレイ演習を通して実践的な理解を図る。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションの意義や機能について学習する。 ○コミュニケーションを図る上での基本的な原則である、共感や受容の原則について

					<p>て学習する。</p> <p>○利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際を学習する（視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、失語症や認知症に応じたコミュニケーション技術）。</p>
②介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	1.5時間	1.5時間	5 3 6	<p>(講義内容)</p> <p>○記録における情報の共有化について、以下の観点から理解を図る。（介護における記録の意義・目的、利用者状態を踏まえた観察と記録、介護に関する記録の種類、個別援助計画書〈訪問・通所・入所・福祉用具貸与等〉、ヒヤリハット報告書、5W1H)</p> <p>○チームでのコミュニケーションにおける報告・連絡・相談の重要性について以下の観点から説明する。（報告の留意点、連絡の留意点、相談の留意点）</p> <p>○コミュニケーションを促す環境について以下の観点から説明する。（会議、情報共有の場、役割の認識の場、利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼、ケアカンファレンスの重要性）</p> <p>(演習内容)</p> <p>○モデルのロールプレイ状況を記録演習し、介護における記録の意義と目的を理解し、利用者状態を踏まえた観察と記録の留意点などについて理解を図る。</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>○記録の意義と種類について学習する。</p> <p>○報告、連絡、相談の留意点を学習する。</p> <p>○介護における会議の意義と、介護職として役割を認識する場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）の必要性について学習する。</p> <p>○ケアカンファレンス、サービス担当者会議の意義と重要性について学習する。</p>
合計	6	3	3		

6 老化の理解 (6 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①老化に伴うこころとからだ の変化と日常	2 時間	1 時間	1 時間	6 1 2 3	<p>(講義内容)</p> <p>○老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴について、以下の観点から理解を図る。(防衛反応<反射>の変化、喪失体験) 老化が及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する。</p> <p>○老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響について以下の観点から説明する。(身体的機能の変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化、精神的機能の変化と日常生活への影響)</p> <p>(演習内容)</p> <p>○高齢者の喪失体験に関するライフヒストリーの記録をもとにグループ演習を行う。どのように理解を図り、どのような心理的配慮とともに支援を行う必要があるのかを考える。</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>○老化には個人差が大きいことを学習する。</p> <p>○老化に伴う、身体的・生理的機能の変化について学習する。</p>
②高齢者と健康	4 時間	2 時間	2 時間	6 4 5 6	<p>(講義内容)</p> <p>○高齢者の疾病と生活上の留意点について、以下の観点から理解を図る。(骨折、筋力の低下と動き・姿勢の変化、関節痛)</p> <p>○高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点について、以下の観点から理解を図る。(循環器障害<脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患>、循環器障害の危険因子と対策、老年期うつ病症状<強い不安感、焦燥感を背景に訴えの多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症>)、誤嚥性肺炎、症状の小さな変化に気付く視点、高齢者は感染症にかかりやすい)</p> <p>(演習内容)</p>

				<p>○断片的な事例情報をもとに、利用者の小さな変化に気付くことの重要性について考える個別ワーク演習を行う。生活場面面接等の重要性や何気ない会話や表情、態度から推測し気付くことの大切さについて考察する。</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>○骨折、関節痛、便秘・下痢などの高齢者に多い疾病について学習する。</p> <p>○誤嚥とその留意点について学習する。</p> <p>○高齢者に多くみられる、循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）や、パーキンソン病、肺炎について学習する。</p>
合計	6	3	3	

7 認知症の理解(6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①認知症を取り巻く状況	1時間	0.5 時間	0.5時 間	7 1	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「認知症を中心としたケア」ではなく、「その人を中心としたケア(パーソンセンタードケア)」が大切であることの意義を理解する。 ○認知症ケアの視点として、できなくなったことではなく、できることに注目して支援する必要性について理解を図る。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症ケアの理念を学習する。 ○認知症ケアの視点を学習する。
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1時間	0.5 時間	0.5 時間	7 6	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理について、以下の観点から理解を図る。(認知症の定義、もの忘れとの違い、せん妄症状、健康管理<脱水、便秘、低栄養、低運動の防止、口腔ケア>、治療、薬物療法、認知症に使用される薬) <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症の概念(認知症の定義、せん妄の症状など)について学習する。 ○認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイントを学習する。
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2時間	1時間	1時間	7 2 3	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症の人の生活障害、心理、行動の特徴について、以下の観点から理解を図る。(認知症の中核症状、認知症の行動・心理症状、不適切なケア、生活環境を通しての改善) ○認知症の利用者への対応について、以下の観点から説明する。(本人の気持ちを推察する、プライドを傷つけない、相手の世界に合わせる、失敗しないような状況をつくる、すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、身体を通じたコミュニケーション、相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、認知症の進行に合わせたケア)

				<p>○認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。</p> <p>(演習内容)</p> <p>○モデルロールプレイ演習を行い、演習後の説明を通して認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントを理解し、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）について理解を図る。</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>○認知症の利用者への対応の仕方を学習する（本人の気持ちを推察する、プライドを傷つけない、相手の世界に合わせる、相手の表情などから気持ちを洞察する）。</p>
④家族への支援	2 時間	1 時間	1 時間	<p>7 4 5</p> <p>(講義内容)</p> <p>○家族への支援について、以下の観点から理解を図る。（認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減（レスパイトケア）</p> <p>○認知症高齢者を介護する家族会など、セルフヘルプグループの役割について理解を図る。</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学ぶ</p> <p>家族とは助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学ぶ</p>
合計	6	3	3	

8 障害の理解 (3 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①障害の基礎的理解	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	8-1 1	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○障害の概念と ICF について、以下の観点から理解を図る。(ICF の分類と医学的分類、ICF の考え方) ○障害者福祉の基本理念について説明する。特にノーマライゼーションの概念について、歴史的背景とともに今日的な福祉実践の中での理解を図る。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>ICF に基づきながら障害の概念について理解する。ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンについてそれぞれ理解する。</p>
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	8-2 2	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身体障害について、以下の項目について理解を図る。(視覚障害、聴覚・平衡障害、音声・言語・咀嚼障害、肢体不自由、内部障害) ○知的障害について、説明する。 ○精神障害(高次脳機能障害・発達障害を含む)について、以下の項目について説明する。(統合失調症・気分障害<感情障害>、依存症などの精神疾患、高次脳機能障害、広汎性発達障害、学習障害・注意欠如多動性障害などの発達障害、その他の心身の機能障害) <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身体障害については障害種別項目が多いので、障害種別ごとに個人ワーク資料を用意し、理解を図れるようにする。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知的障害について学習する。 ○精神障害について学習する。(統合失調症・気分(感情障害)・依存症、発達障害(広汎性発達障害))
③家族の心理、かかわり支援の理解	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	8-2 3	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家族への支援について、以下の観点から理解を図る。(障害の理解・障害の受容

				<p>支援、介護負担の軽減)</p> <p>(演習内容)</p> <p>○障害をもつ子どもの母親の手記を用い、 家族への支援に関する個人ワーク演習を 通して実践的に理解を図れるようにす る。</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>○家族のとらえ方および支援（レスパイト サービス）について学習する。</p>
合計	3	1.5	1.5	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (67 時間)						
基本知識の学習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	①介護の基本的な考え方	2 時間	0 時間	2 時間	9 1 2 3 23	《添削課題出題ポイント》 ○理論に基づく介護 (ICF の視点) を学習する。 ○根拠 (法的・科学的) に基づく介護を学習する。
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3 時間	0 時間	3 時間	9 4 5 6 7 8 9	《添削課題出題ポイント》 ○学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがいについて学習する。 ○老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因について学習する。
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	7 時間	0 時間	7 時間	9 10～ 22 24	(講義内容) ○以下の観点について理解を図る。(人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、こころとからだを一体的に捉える、利用者の様子の普段との違いに気づく視点、バイタルチェック) (演習内容) ○腰痛予防を含め、介護状況におけるボディメカニクスを理解し活用できるよう実技を兼ねた演習を行う。 ○人体の各部名称や動き、骨・関節・筋に関する基礎知識等については個人ワーク資料を用意し、演習作業を通して理解を図れるようにする。 《添削課題出題ポイント》 ○人体の基礎知識を理解について学習する。 ○骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用について学習する。 ○中枢神経系と体性神経、自律神経、内部器官に関する基礎知識について学習する。

生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	3時間	3時間	0時間	<p>○家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援について、以下の観点から理解を図る。（生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観）</p> <p>○掃除・ごみ捨て援助のポイントや基本原則について理解を図る。</p> <p>○洗濯援助のポイントや基本原則について理解を図る。</p> <p>○調理援助のポイントや基本原則について理解を図る。</p> <p>○衣服の補修・裁縫・衛生管理、買い物、会計管理援助に関するポイントや留意点について理解を図る。</p> <p>（演習内容）</p> <p>○調理援助に関して、模擬事例を用い、グループ演習を通して調理援助の計画を作成し報告する。配慮すべき点や原則を踏まえ考察し理解を図る。</p>
	⑤快適な居住環境整備と介護	3時間	3時間	0時間	<p>（講義内容）</p> <p>○快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法について、以下の観点から理解を図る。（家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与）</p> <p>（演習内容）</p> <p>○高齢者や障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用に関して特殊寝台、車椅子、歩行補助具、腰掛便座、入浴補助用具、等を実際に用いて基本的使用方法について演習実技を行う。</p>
	⑥整容に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	7時間	7時間	0時間	<p>（講義内容）</p> <p>○整容に関する基礎知識、整容の支援技術について、以下の観点から説明くおよび実技演習を行う。（身体状況に合わせた衣服の選択・着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義・効果）</p> <p>（演習内容）</p> <p>○衣服の着脱に関して、右片麻痺がある人の上衣・ズボンの着脱のための一部介助の方法について実技演習を行う。</p> <p>○衣服の着脱に関して、ベッド上で右片麻痺がある人の上衣・ズボン着脱のための全介助の方法について実技・演習を行う。</p>

	<p>⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	9 時間	9 時間	0 時間	<p>(講義内容)</p> <p>○移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援に関して、以下の観点から説明<および実技演習>を行う。 (利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、利用者の自然な動きの活用、残存能力の活用・自立支援、重心・重力の動きの理解、ボディメカニクスの基本原理、移乗介助の具体的な方法<車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗)、移動介助<車いす・歩行器・つえ等>、褥瘡予防、歩行介助<視覚障害者の支援></p> <p>(演習内容)</p> <p>○体位変換に関して、ベッド上で左片麻痺がある人の仰臥位から側臥位への変換のための一部介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○体位変換に関して、ベッド上で左片麻痺がある人の起き上がりから端臥位への変換のための一部介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○体位変換に関して、ベッド上で左片麻痺がある人の端臥位から立位への変換のための一部介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○体位変換に関して、ベッド上で左片麻痺がある人の端臥位から立位への変換のための全介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○歩行介助に関して、視覚障害がある人の平地歩行のための一部介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○歩行介助に関して、視覚障害がある人の段差越えのための一部介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○歩行介助に関して、視覚障害がある人の階段昇降のための一部介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○移乗介助に関して、左片麻痺がある人のベッドから車いすのための全介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○移乗介助に関して、左片麻痺がある人の車いすから洋式トイレへの移乗のための全介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○移動介助に関して、車いす<平地・段差・坂道>での介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○移動介助に関して、歩行器<平地・段差・坂道>での介助の方法について実技・演習を行う。</p> <p>○移動介助に関して、つえ歩行<平地・段差・坂道>での介助の方法について実技・演習を行う。</p>
--	--	------	------	------	---

⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5 時間	5 時間	0 時間	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援について、以下の観点から説明くおよび実技演習>を行う。(食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識、低栄養の弊害、脱水の弊害、食事と姿勢、咀嚼・嚥下のメカニズム、空腹感、満腹感、好み、食事の環境整備<時間・場所等>、食事に関連した福祉用具の活用と介助方法、口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防) <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食事介助に関して、右片麻痺がある人の座位による一部介助の方法について実技・演習を行う。 ○食事介助に関して、右片麻痺がある人のベッド上による全介助の方法について実技・演習を行う。 ○口腔ケアに関して、ブラッシング法を用いた口腔ケア方法の実技・演習を行う。 ○食事に関連した福祉用具の活用と介助方法について実技・演習を行う。
⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7 時間	7 時間	0 時間	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について、以下の観点から説明くおよび実技演習>を行う。(羞恥心や遠慮への配慮、体調の確認、全身清拭<身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方>、目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、陰部清浄<臥床状態での方法>、足浴・手浴・洗髪) <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入浴介助に関して、右片麻痺がある人の入浴介助のための一部介助の方法について実技・演習を行う。 ○入浴介助に関して、足浴・手浴介助の方法について実技・演習を行う。 ○入浴介助に関して、洗髪介助の方法について実技・演習を行う。 ○清拭介助に関して、上半身介助の方法について実技・演習を行う。 ○清拭介助に関して、下半身介助の方法について実技・演習を行う。 ○清拭介助に関して、手足介助の方法について実技・演習を行う。 ○清拭介助に関して、目・鼻・耳・爪の清潔保持の方法について実技・演習を行う。 ○陰部清浄に関して、<臥床状態>での方法について実技・演習を行う。

<p>⑩排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7時間</p>	<p>7時間</p>	<p>0時間</p>	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○排泄に関する基礎知識、さまざま排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところからだの要因の理解と支援方法について、以下の観点から説明<および実技演習>を行う。(排泄とは、身体面<生理面>での意味、心理面での意味、社会的な意味、プライド・羞恥心、プライバシーの確保、おむつは最後の手段、おむつ使用の弊害、排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、便秘の予防<水分の摂取量保持、食事内容の工夫、繊維質の食事を多く取り入れる、腹部マッサージ) <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○排泄介助に関して、右片麻痺がある人のベッドからポータブルトイレ使用のための一部介助の方法について実技・演習を行う。 ○排泄介助に関して、右片麻痺がある人(女性)のベッド上でのパッド・紙おむつ交換のための全介助の方法について実技・演習を行う。 ○排泄介助に関して、右片麻痺がある人(男性)(女性)のベッド上での尿器使用のための一部介助の方法について実技・演習を行う。
<p>⑪睡眠に関したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7時間</p>	<p>7時間</p>	<p>0時間</p>	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところからだの要因の理解と支援方法について、以下の観点から説明<および実技演習>を行う。(安眠のための介護の工夫、環境の整備、<温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室>、安楽な姿勢・褥瘡予防) <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○就寝介助に関して、誘導、着替え等の基本的な方法について実技・演習を行う。 ○ベッドメイキングに関して、基本的な方法について実技・演習を行う。 ○敷きシーツ交換に関して、ベッド上に利用者が寝ている場合の介助方法について実技・演習を行う。 ○コーナーの作り方に関して、(三角コーナー)(四角コーナー)方法について実技・演習を行う。

	⑫死にゆく人に関する こころとからだのし くみと終末期介護	2時間	2時間	0時間	<p>(講義内容)</p> <p>○終末期の関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援について、以下の観点から説明くおよび実技演習を行う。(終末期ケアとは、高齢者の死に至る過程<高齢者の自然死・老衰、癌死、臨終が近づいたときの兆候と介護、介護従事者の基本的態度、多職種間の情報共有の必要性)</p> <p>(演習内容)</p> <p>○書籍事例等を用い、「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について必要な支援の在り方について考えることができるようにグループ演習を行う。</p>
生活 支援 技術 演習	⑬介護過程の基礎的理 解	3時間	<p>(講義内容)</p> <p>○個別支援計画の作成を通して介護過程の目的・意義・展開について理解を図る。 ○介護過程とチームアプローチについて説明する。</p> <p>(演習内容)</p> <p>○グループ演習を通じた個別支援計画の作成演習を通して基本的な介護過程の理解を図る。</p>		
	⑭総合生活支援技術演 習	10時間	<p>(講義内容)</p> <p>○生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す。</p> <p>(演習内容)</p> <p>○「トイレでの排泄にこだわりをもつ利用者の支援の事例(片麻痺)」、「独身の一人息子が無心に着て暴力的な対応を受けた一人暮らしの高齢者」(認知症)の2事例について、こころとからだの力が発揮できない要因分析を行う。 次段階で適切な支援技術の検討を行う。その後、支援技術演習、支援技術の課題(1事例 2.0時間程度で前記のサイクルを実施する)を行う。実施後に個別評価・確認を行う。</p>		
実習		0時間			
合計		63			
10 振り返り (時間)					
項目名		時間数	講義内容及び演習の実施方法		
①振り返り		2時間	<p>(講義内容)</p> <p>○以下の観点から講義と演習を通して理解を図る。(研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点<利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)</p> <p>(演習内容)</p> <p>○「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識をもって、身だしなみ、言葉づかい応答の態度など業務における基本的態度の模擬演習を行い介護を行えるよう理解を促す。</p>		

②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2 時間	<p>(講義内容)</p> <p>○以下の観点から講義と演習を通して理解を図る。(継続的に学ぶべきこと、研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例を紹介)</p> <p>(演習内容)</p> <p>○G演習形式でキャリアプランに応じた自己課題や学習計画等に関し情報交換することで、視野や情報を広げ自己の継続的な学習等に活かす。演習後、いくつかの法人組織における特徴のあるOJT等の教育研修システムを紹介する。OFF-OJTに関しては、法定研修や資格学習について情報提供する。</p>
合計	4	
全カリキュラム合計時間		130 時間

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること